

愛知県職業能力開発審議会議事録

1 日時

平成 29 年 10 月 10 日（火）午後 3 時から午後 5 時まで

2 会場

岡崎高等技術専門校 人材開発棟 2 階第 1 会議室

3 出席者

[出席委員 10 名]

塩澤陽子、菅原俊彦、堤一宏、桂山光弘、猿渡智佐登、本田勝久、丸山洋子、木村徹、高綱睦美、田中早人（敬称略）

[欠席委員 4 名]

松原智秋、福田和仁、小倉祥子、山岸敬子（敬称略）

[事務局 8 名]

産業労働部労政局長 藤田昇義、産業労働部次長 岡田守人、
産業労働部労政局就業推進監 吉田和裕、産業労働部労政局産業人材育成課長
日高啓視、同課主幹 田中英二、同課課長補佐 大谷正英、同課課長補佐
小川裕二、岡崎高等技術専門校長 今井貴章

4 議題

第 10 次愛知県職業能力開発計画の進捗状況について

5 審議内容

事務局から出席状況の報告を行い、本日の審議会が有効に成立していることを確認した後、会長以外の議事録署名人として猿渡委員が指名された。

その後、事務局から資料 1 に基づき、会場である岡崎高等技術専門校（以下「岡崎校」という。）の施設、訓練内容の概要説明を行い、施設の視察を行った。

施設視察終了後、第 10 次愛知県職業能力開発計画の進捗状況について、資料 2 及び資料 3 に基づき事務局から報告し、意見交換を行った。

（質疑等）

委員： 県立高等技術専門校の見直しについて、先ほど施設を視察したが、建物の古さもさることながら、一番気になったのは施設周りの状況、雑草が生えているなど、こうした環境では高校生や親が見学にきてもがっかりしてしまうのではないかと。名古屋高等技術専門校（以下「名古屋校」という。）と比較するとどうしても見劣りする。視察したコースも足元もおぼつかなく一見廃墟のようなイメージを与える。外部から雑草をとる人を募集するなど工夫できないか。

事務局： かつて中学・高校卒業者を対象とした普通課程が多くあった時代は、清掃など実習場内の環境整備の時間に合わせて雑草などの駆除もかなり

行うことができたのだが、現状の訓練規模においては実習場などの周辺はある程度実施しているが、すべてを行き届かせることはなかなか困難な状況である。

別の場所にある造園科の草刈機などは、安全性の問題もありこちらの生徒に使わせることはできないが、環境整備の方法を検討していきたい。

委員： 今企業が人材を集めるにも施設が綺麗でないと若い人が集まらない。先ほどの施設視察の際にも足元に大きなコンクリートがゴロゴロしていて転びそうになった。やはりそうした整備は必要だと思う。造園科などがあるならば、授業の一環で施設の環境を整備するとか工夫できないかと思う。また設備も既に減価償却が過ぎてかなりの時間のたった機器が多く、財政的に厳しい点もあると思うが予算を確保して更新していかないと最新の技術に追いついていかないのではないかな。

事務局： 施設設備の整備方法については、今回の見直しの中で検討していきたい。

委員： 岡崎校の施設の土地は、県有地か。

事務局： 岡崎市からの借用地が一部あるが、大半は県有地である。

猿渡委員： 民間の感覚であれば、これだけ広大な敷地なので半分処分した費用で建替えるなどする。そうしたことも検討してよいのではないかな。

事務局： 高等技術専門校は、現在県内に6校あり、名古屋校と岡崎校を拠点校として今後機能を充実・強化していく予定としている。6校全体で、そうしたことも検討していく

委員： 岡崎校は、三河地域の拠点とするとしているので、整備にあたってはこうした意見を尊重した整備としていただきたい。

委員： 今回の施設視察では、施設の老朽化の現状を見てもらいたい、ということもあったと思う。

東三河高等技術専門校も同様の現状であるが、訓練生の減少もあってこれだけ大きな敷地の中でやっていると、造園科があるといってもなかなか行えないから施設を集約して整備していくのはやむを得ない。整備には知恵を絞ってやってもらいたい。

委員： 今回なかなか見る機会のない高等技術専門校を見る機会が与えられてよかった。他の委員の意見にもあったが、これだけの施設が有効に使わ

れていないのはもったいない。財政的な制約があるにせよ長期的な見直しについては、ぜひとも検討していただきたい。

訓練内容は濃くかつ実践的な内容を行っており、中小企業で活躍できる人材を育成していると思うので、訓練生が学びやすい環境を作るという意味でも施設集約は必要なのではないかと。

事務局：集約しながら効率的に訓練を進めていけるよう検討していきたい。

委員：1点感想と2点要望をしたい。

感想は、今回施設を視察して、施設の現状については、他の委員の意見と同様であるが、そうした中でも実習場は整理整頓されているなという印象を持った。ただ訓練生の技能を習得させるということだけでなく、整理整頓といった人としての教育がきちんとされているのだろうと思う。

要望は、一つは資料2にある産業人材育成連携コーディネーターの活動について、中小企業を回って課題などを把握していると思うが、中小企業がこれから取り組む課題を把握して支援することだけでなく、支援が終わった後についても次に活かせるように両面から支援してもらいたい。

もう一つは、資料3にある高等技術専門校の見直しについて、新しいコースを想定するとあるが、進めるにあたっては、中小企業の意見をよく把握してニーズに合ったコースを検討していただきたい。

事務局：産業人材育成連携コーディネーターの活動については、委員の指摘の通りしっかり進めていきたい。新コースの設定については、普通課程を想定しているが、現在も訓練生に対し行っている1カ月間の現場実習などを通じて、中小企業で必要とされる技能のニーズを把握しながら検討を進めていくようにしたい。

委員：今回机上ではなく、現場を視察することができたのはよい機会だった。印象としては施設が閑散としているという印象を持った。もっと学校というイメージは活気にあふれているものと思っていたが、黙々と訓練が行われている印象である。

集中教育の形をとっているから、今電気系の訓練を行っているから旋盤が空いているとか使用していない設備があるという状況になるのは解るが、例えばもう1グループ作るとか工夫できないものか。もちろん求人がなければいけないが、これだけ三河地方で人手不足が言われている中で、入校率が100%でないというのは、ニーズと合致しているのかということも今一度検討しなければならない。設備も確かに古いものだが、綺麗に使っていて、中小企業でも古い機械を大事に使っている企

業もあるので、こうしたものを調整して使える人材は、企業ニーズがあるのではないかと。そう考えると高等技術専門校でこうした人材を訓練しているというアピールをもう少し行って行けば、おのずと訓練生も集まると思うのだが。

事務局： かつて、訓練科目が多かった時は、実習場も有効活用されており、活気があった。また、求人のため中小企業も多く専門校を訪れており、そうした機会に企業ニーズの把握なども自ずと行うことができた。そうした意味でも施設の集約化を図ることにより活気を生み出していきたい。

委員： 空き施設を中小企業の研修施設に開放するなどの工夫はできないか。

事務局： あくまで入校した訓練生の訓練が第一であるが、土日など訓練生の利用していない時間に実施している、中小企業向けの在職者訓練を拡充するなど有効活用を検討したい。

委員： 施設を視察した印象は、やはり老朽化しているなということと、施設が空いているところが多くてもったいないな、という印象である。企業では空きスペースができれば新しい事業をどんどん実施していく。ニーズに合った訓練を新たに検討していく必要がある。

また、現状就職してもすぐに辞めてしまう人が多い。訓練の中で現場実習を行っているのは企業の現状を知るのに良いと思うので、今後も継続して行ってほしい。

事務局： 訓練生の就職先として、現場実習に行った企業にそのまま就職した例が多くあるので、全く新しく就職した人より、現場を知って慣れている分だけ定着に効果が出ているのではないかと思う。

委員： 専門校の見直しは、中小企業にいかに喜んでもらえる人材を輩出するかである。そういった点から岡崎校みると、モノづくり総合科では、旋盤、フライス盤、NC機器の訓練を行ってトータルでモノづくりができる人材を育成していて、だから企業としてありがたいねという形で生き残っている。活路を見出すとすればそういうところ。企業がどういう人材を求めているのかニーズを把握したうえで、各高等技術専門校の特色を出して住み分けをしていくことが重要である。

併せて企業からみると、まず4S（整理・整頓・清潔・清掃）がきちんとできる子からほしがらる。物が作れても4Sがきちんとできないと必ずケガをする。高等技術専門校の修了生はちゃんと言われたこともできるし、4Sもきちんとできるね、という訓練を加えて実施するとよい。また、技能だけではなく人間力がつくような人材が育てられる訓練を入れ

るとよい。例えばあいさつがきちんとできる人間。

後は、大企業の標準作業と異なり、中小企業ではいろんなことができる人材を求めている、改善する能力を持った人材は絶対欲しいと思う。改善する能力を養える訓練を加えるとよいと思う。知的障害者の訓練も今回視察したが30のサーキットを繰り返して行っていたが非常に良いことだと思う。標準作業を正確に行い良い物を、早く、正しく、安全に出す訓練をするのは大事なことである。視察した中でボルトを締める作業を時間を計りながら行っている子がいたが、仮に彼女が今行っている作業をこう工夫したらもっと早くできるのではないかと提案できる人材となったら、きっと企業はそうした人材がほしいと思う。言われたことを100%できる人材は企業にとってありがたいが、もう一歩先をいかに改善してくれるか、ということ望んでいると思うので、この見直しの中でそうしたことを柱建てとしていけるのではないか。もっと中小企業がどんな人材を望んでいるかを把握して、こちらの姿を変えて行く必要がある。

昭和30年代に建てられた古い施設で、夏場40度を超える気温の中で訓練を行うのに耐えられる人材であれば、現場に行けば楽勝だ、という考え方もあるのかもしれない。大事なことは何のためにそうするのかということ。そこをよくよく考えていけば検討も早く進んでいくのではないか。

事務局： かつて高等技術専門校において中学卒業者を対象とした訓練では、何をおいてもまず挨拶ができるように指導していた。指摘の点は指導員に徹底させていきたい。

委員： 高等技術専門校の見直しについて視察で指導員の話聞いて印象に残ったのは、図面を見て自分で考えて作業できる人材を育てるという目標を掲げていた点であり、それはとても大事なことだと思う。特に中小企業向けの人材育成であるからということ強調していたのが印象に残った。

知的障害者の訓練においても、まず8時間働ける体力をつけるため、ストレッチや筋トレなどがカリキュラムに組んであることはよいと思う。そうした良い点を発展させてここで訓練した人材はこうしたことができるのだ、という形にしていくのがよいと思う。

先ほど中小企業への施設の開放という話もあったが、入校生が普通科高校の卒業生が多いということなので、同じものづくりを行っている工業高校生との交流の場を設けるとお互い刺激になるのではないか。

キャリア教育については、ものづくりの関心を高める仕掛けをいろいろ行ってありがたいと感じている。こうした活動でものづくりに関する関心は、徐々に高まっていると感じていて、活動が少しずつ実

を結んでいるのではないかと考えているので、今後も継続的にこうした活動が続けてもらって、定量的なものでなくてもよいので、感想など定性的な面も成果として発信すると保護者などに対する事業効果を高めて行くのではないかと考えている。

事務局：子どもたちへの取組については、技能五輪全国大会の開催や技能五輪国際大会の招致もあり、そうしたイベントの周知もかねて今後も小中学校等に向けたこうした事業は強化していくので、よりたくさんの生徒に技能に触れる機会が増えるのではないかと考えている。

委員：各高等技術専門校の特徴を出すことを何かできるようにしていただきたい。また、中小企業のために人材を育成するのだから中小企業の方にも協力してもらって例えば、修了生で技能大会やお祭りを行うなど、中小企業と一緒に何かイベントを行うなど工夫して、注目を集め活性化につなげるなどしてもよいのではないかと考えている。

委員：やはり、現場を見ると意見が言いやすい。今回名古屋校はという意見があったが、名古屋校を知らないと解らない。毎回というわけにはいかないだろうが、現場を見る機会を設けていただいで論議ができるとありがたい。